

小山敬三は絵画のみならず「書」も優れていました

洋画家小山敬三は生涯に多くの書を残しています。絵画の功績はだれもが認めるところですが、「書」にも造詣が深く才能に溢れています。小山敬三美術館では、令和4年度の後期企画展として、「小山敬三の書展」を開催します。

■詳細情報

展示日

令和4年12月 3日（土）から
令和5年 3月31日（金）まで

場所

小諸市立 小山敬三美術館 第二展示室
開館時間 9時から16時
期間中 12月7日から3月8日までの毎週水曜日と
年末年始（12月29日から1月3日）休館

内容

江戸時代からつづく商家に生まれた敬三は、子供の頃父から手習の指導を受けたということです。その父、小山久左衛門は芸術に造詣の深い人で、敬三は富岡鉄斎などの書画の名品に囲まれて育ちました。小山敬三の絵は東洋の精神を西洋の技法で描くと言われます。書は東洋の精神の表出であり、二十世紀の文人画家小山敬三の書は、その絵の真髄を表していると言えるでしょう。その作風は絵と同じく骨太で誠実、偶然に期待せず、伸び伸びとして一筆一筆が紙面の隅々までの調和を考えて書かれています。

その他

第一展示室では代表作を常設展示中です。



■問い合わせ先

小諸市立 小山敬三美術館 担当：中嶋 慶八郎
TEL 0267-22-3428 Eメール keizo@city.komoro.nagano.jp